増補訂正

横尾惣三郎著

養蠶家の生くる道

組合製絲

特255
867

始

自序

生絲は我國輸出の六割以上を占め從つて優に我國の經濟を左右しうる國產の大宗であるが、現在多くの養蠶家の樣に原料品たる繭の儘で賣る樣では結局所謂養蠶亡國論になる虞がある。組合製絲は養蠶家並に養蠶地方の農村を繁榮させる唯一適確の方法で、本書の標題に養蠶家の生くる道と書いたのもつまり此意味に外ならない。自分は組合製絲に就ては鄕里が組合製絲の發祥地たる上州南三社の所在地でもあり又自分の先考が組合製絲の鼻祖の一である甘樂社の發起者でもあつた關係から、十年の官吏生活中長野縣に愛知縣に組合製絲の奬勵には些少の心肝を碎き、殊に一昨年農村問題調査の爲め歐米に遊んでからは一層此組合製絲が我國の農村振興に緊要であることを痛感した。

愚見では組合製絲の發達は要するに志士仁人身を棄てゝ盡くすべき國家的の大事業と信ずるから誠に不束の身ではあるが自分は終生の事業として微力を傾倒するつもりであ

る、本書は其現れの一として先頃開かれた高崎市の全國組合製絲大會や各地の會合で講演したものであるが、小冊子として普く同志に頒つたらと云ふ人々の勸めもあるので、淺學菲才を顧ず所謂南船北馬の閑を偸んで綴つたものである。從つて成るべく多くの人々に讀んで貰ひたい爲めに自然簡單を主としたから、說いて盡さざる點の多いのは止むを得ない。夫れ故組合製絲の詳細に就ては他日又機會を得て愚見を公にするつもりである。唯若し本書の如き微々たる冊子が些少でも私の最も敬愛する組合製絲の同志たり又將來同志たらんとする人々の御參考になりうれば寔に本懷の至りである。

大正十五年一月十日

横尾惣三郎

第六版序文

本書の歡迎は些少の自信を持つて居つた著者に取つても全く豫想外であつた。何事も宣傳の世の中に價格の廉いため廣告料も出ないと云つて新聞廣告も一回もしなかつたに拘はらず、出版以來僅か五十日の間に一万部出ようとは夢にも思はない所であつた、此れは全く組合製絲の同志諸君の熱誠なる後援の賜に外ならぬ。微々たる小冊子に對し產業關係の色々の雜誌を始め、早川博士や全國の組合製絲關係者から賞讃や激勵の辭を寄せられたのは誠に汗顏の至りである。

組合製絲の普及發達は著者畢生の事業であり、著者も目下新愛知新聞其他各種の方面に忙殺されては居るが此の道の爲めには喜んで微力を傾倒するつもりである。從つて歸朝以來單に組合製絲の講演だけでも約五十回、二万以上の同志諸君に御目にかゝつた。今後とても時間の許す限り南船北馬を辭さぬつもりであるから講演其他の御相談は遠慮

なく御申出下さる樣に。

昨今絲價の暴落につれ製絲家や仲買人の惡宣傳もあり自然組合員の動搖も少くないに違ひない、然し今年の春繭は恐らく又安からうと思ふ、起伏や伸縮みは世の中の常である、少し位の景氣不景氣に一喜一憂する樣では大事業は出來ぬ、斯樣な景氣不景氣があればこそ組合製絲は益々必要なのである。組合製絲の普及にはかういう時が最も善い機會であるから同志諸君の御奮鬪を煩はしたい。

大正十五年四月十日

横尾惣三郎

第十二版序文

本書も昭和二年七月著者が新聞記者より又官界入りをしたために、約三箇年間江湖諸賢の希望に背いて絶版の運命に逢着した。此間著者は著書による宣傳を中止して寧ろ鋭意實行運動に移つて、著者の全エネルギーを擧げて、抱負經綸の實際化に專念した。褒貶毀譽は何れにあれ、樺太に於ける帝國の北方經營は知る人ぞ知る、二千萬圓の豫算を一擧にして三千四百萬圓となし、日本に於ける寒帶地帶唯一無二の研究機關たる、中央試驗所の創設を始め、及ばずながらまづ相當の仕事をしたつもりである。香川縣の一箇年間は文字通り心骨を削つて、生れたものに自給自足の農事講習所、綜合的農事試驗所、組合製絲二箇所の新設等がある。

舞臺は一轉した。昭和四年夏の政變により著者は再び操弧界に入つて文筆に親むことなつた。斯くて多年の心願たる「歐米農村巡り」並「如何にして農民は生くべきか」

の二著は成つて、些少とも文筆報國の素志を貫くことが出來たのは何よりの會心事である。

折から絲價補償法の適用による政府當路者の大失敗から絲價は暴落につぐに暴落を以てし、正直なる養蠶家の損害は誠に見るに忍びざるものがあり、組合製絲普及の必要は愈〻切實を加へて來たので、茲に多大の增補を加へ再び世に出すことにした。唯當初農民大衆のために簡潔を生命にして生れた小冊子が增補訂正のために頁數が意外に增加したのは一得一失の憾がないではないが、此の點は同志諸君の御宥恕を願ひたい。

最後に一言加へたいことがある、昨今の急激なる絲價暴落に怯えて一方人絹の發達に眼を奪はれ養蠶悲觀論が遽に勢力を占めて來たが、此れは富士川の水禽に驚く平家の公達と同樣、其狼狽振りは寧ろ憫笑に値ひするが、吾等の見る所では昨今の絲價暴落こそ、生產費大節減、販賣機關革新等、所謂吾等の多年絕叫しつつある蠶絲業の根本的革新を招來すべき產褥の惱みとも稱すべきものであつて、颱風一過やがて晴空一碧更始一新以て農民大衆に基礎を於ける堅實なる蠶絲業の發達を見るべきは吾等の信じて疑はざる所である。

昭和五年六月

小石川の寓居に於て

横尾惣三郎

目次

第一章　工業的農業の話……一
第二章　組合製絲の話……一一
蠶絲業の革新案……一一
組合製絲の利益……一五
組合製絲反對論……二三
組合製絲の經營法……二五
組合製絲の經營上最も注意すべき點……三八
營業製絲と組合製絲の比較……六二
組合製絲十訓……六九

增補訂正 養蠶家の生くる道 組合製絲

横尾惣三郎著

第一章　工業的農業の話

先年國際勞働會議の序にヨーロッパやアメリカの農村問題の調査を命ぜられて出掛けた道すがら、小學時代から世界の不思議と聞いて居るエジプトのスフキンクスやピラミッドを見物しやうと思つて、首府カイローに着いたのが大正十三年五月下旬、駱駝に乘せられ沙漠の砂埃の中を連れられて歩いてピラミッドやスフキンクスには左程にも思はなかつたが、翌日人類發生以來の文明が解かると云ふのでエジプトの博物館を見て此れは又實に驚いた。四千年前にエジプトの農民が使つて居つたと云ふ農具が、日本の現在

使つて居る鋤や鍬に能く似て居るではないか。さうして見ると日本の農業は四千年以來餘り進歩しない——神武天皇より千五百年も前から——原始的農業所謂高天ヶ原農業と云つて善い。實際農具は勿論農業の經營法もヨーロッパやアメリカの農業と比べて極めて簡單で、農業經營になくてはならぬ畜產は殆んどやらない、穀作野菜等の普通農業一點張り、忙しい時は盆と大晦日が一所に來た樣に忙しく、閑な時は所在なさに困る有樣一言にして云ふと原始的單一農業である。日本を視察した或イギリス人が日本の農業は音樂的だと批評したから、はて不思議だと其理由を聞いて見たら、東海道を汽車で旅行した際に、濃尾平野で水田を鍬で上下して起してゐる具合が、全くリズムに合つて音樂的だと云ふ話。ヨーロッパでは耕耘には耕耘機か少くとも二頭曳の牛馬を使ふ、人間の手で耕耘するのは數百年前の昔話、又日本では人力車始め農車も人間が曳いて居るとヨーロッパでの一口話、汽船會社や旅行案內社のポスターに能くある繪が人力車と子供を脊負つて居る子守女と藝妓の姿、いやはやお耻しい譯、西洋では人間は乘り手で曳き手

は畜類か發動機に限つて居る。

ヨーロッパやアメリカの農業經營法は日本の原始的單一農業の時代はとうの昔に過ぎて今は工業的農業の世の中、此の工業的農業と云ふのは農家が工業と商業とを併せ兼ねて居る仕組、日本の農業は原始的單一農業だから、農家は農業丈で自己の生產物を多くは原料のまゝで賣り放つ、然も其賣却方法が產業組合の共同組織を利用する者は少く、多くは源平時代の一騎打も同樣、個人賣りである。從つて折角汗水垂らして苦勞して作つた擧句、仲買人や問屋に安く買はれてしまふ。商賣にかけては農民はどうしても初心であるから、商賣人にだまされ易い、百日の苦勞を半日に失ふとは此の事である。

ヨーロッパやアメリカの農業は工業的農業であるから、自己の生產したものは出來るだけ原料品で賣らずに、此れを產業組合の力により工場で加工した上に共同販賣する。卽工業家と商業家を兼ねるのだから、勞力の需要も多く一年中案配よく忙しいし、利益も中間商人に壟斷されないから多いし、消費者も亦安く買へるから需要は益々殖えて結

局農民の收入は多くなるのである。日本の農家は僅か一戸當り一町歩と云ふ小面積の加減もあるが、前に云ふ通り原始的單一農業のため、其收入はヨーロッパやアメリカの農家に比べて馬鹿に少いもので、一例を自分の泊つた丁抹の農家に就て云ふと、過去十ケ年間の家計簿が整然と立派につけてあつたが、平均優に年五千圓位の純益はある、耕作面積は約四十町歩で此の外畜産が盛だから、牛二十七頭豚三十八頭馬六頭鷄五十羽を飼つて居る。丁抹はヨーロッパの小農國であるが、一戸當り平均十一町四反餘であるから、四十町歩の農家は中農の下の部類である。斯樣に澤山の利益のあるのは要するに西洋の農業は穀類野菜等の普通農業に、牛や豚や鷄等の家畜農業が盛んで農業の經營法が複雜の爲めであり、生産加工販賣や資金の融通、農具肥料の購買など總て産業組合の力による工業的農業だからである。

理窟よりも事實の説明が早い。先づ米作の話をすれば伊太利のバルチェリーと云ふ所で視察しましたが、耕耘は耕耘機(トラクター)で田を起こし、除草は一度に七柵宛機械力乃至畜力でやる、刈取は牛か馬か二頭曳きの機械で雜作はない、脱穀籾摺り等は發動機用の器械を使ひ、乾燥は電氣或は石炭の火力乾燥、日本では箱庭の樣な小さい田を殆んど人力專門にやる。乾燥など日當りのよい土藏の前邊りで冬の弱い太陽に乾(ほ)したり濡(ぬら)したり乾(かはか)したりと云ふ具合、人夫賃も一町歩二百三十人以上、伊太利の二倍以上である。伊太利の水田は機械を使ふから長方形で幅は割合に狹いが長さは非常に長い。

家畜の飼養法も丁抹の例を云へば、畜舍が大抵コンクリートで、嚴重に衞生的經濟的に出來て居り掃除等に大變便利である、鷄卵なども一戸當り平均五十羽强で、卵は組合があつて一週間に二度宛集めに來る、其時ゴム判で農家の番號と組合の番號とを卵に押し、更に輸出組合聯合會の商標を押してあるから、例へばロンドンの商店で腐つた卵があれば何村の何兵衞たる事が直に解る、解れば約五十倍の罰金が課せられるから農家は勿論組合の檢査が嚴重で、組合に行くと石油箱位の箱の、内面が黑く塗つてあつて、其底に六十四燭の電燈が二個つけてあり、蓋は硝子板で其上に横に十二個縱に八個の卵の

入つて居る框を載せると若し卵に曇りがあればとりのける、二人の婦人で選別の早いこと夥しい。斯樣に檢査が嚴重で品物が確だから、丁抹の卵はフランスやスキスの卵より質は惡いが一割位ロンドンで高い相である。

次に牛や豚肉の加工の狀況を簡單に說明すると、丁抹の農村には到る所此の加工場があつて、先づ豚に就て云ふと六間に十五間位の工場で、入口から二頭宛二列に豚が鼻を釣されて線上を自動的にピン〳〵やつて來る、まるで豚の行列だ、やがて先づ二人の屠夫が居つてナイフで豚の心臟目がけて刺すと一時にグタリとなる、此の屠殺法は學者の充分なる研究によると無痛であるそうだが、未だ嘗て豚に聞いた人はないから、眞僞は保證の限りでないが素早いもので、次には大きなグラ〳〵煮沸へつて居る湯釜の中にドブリ入ると、湯釜の中を潛つて居る中に今度上る時は立派に煮へて居る、次の人夫が皮を剝ぐ、次いで手足や首を切り、斯樣の方法でグル〳〵自動的に廻はつて居る中に立派な肉になつて、其早いこと實に日本の屠殺場などを見て居る人間には想像出來ない。其

肉には1等2等3等と燒印が打つてあつて、一等肉は煮ないで食べられるし、二等肉は煮て食べる、三等肉は惡い所を切つて賣り都會や農村の勞働者に賣る、商標がアラビヤ數字で簡單明瞭だから世界中共通で信用が高く取引が圓滑である。

此の格付商標の事は取引上最も大切であるが、近い例を日本の生絲に取ると、自分がニューヨークの同業組合の檢査所で聞いた話に、日本の生絲の商標は約二千以上もあつて、碓氷社で云へば羽子板五人娘三人娘、甘樂社では握手赤字銀字、龍水社は金龍銀龍など其外七福神とか何とかかんとか、餘り數が多いから、日本人でも赤字が善いのか銀字がよいのか五人娘が善いのか三人娘がよいのか解らぬ位だから、況して外國人に解らう筈はない。折角の商標や格付が從つて何にもならない、よく解らないからそこで横濱の問屋や仲買や輸出商が勝手に商標や格付を作つて外國人をごま化す、だからニューヨークには日本にない製絲家名や格付商標が仲々あるさうで、外國人もあきれて居るさうだし、第一横濱の檢査所の檢査が所謂拔き取り檢査だから、信用がなくニューヨークの同

業組合では日本から來た生絲を更に嚴重に檢査するために多大の費用を要し、ために取引も不圓滑だし、價格も實質以下に勢ひ安く買はれるのである、自分の考では製絲家が各自格付商標をやるのを止めて横濱の生絲檢査所を擴張し、國家が一手に格付をし矢張り1等2等3等と云ふ具合に數字にするのが、對外輸出上一番賢明の策と思ふ、此れには問屋や製絲家が或は利己主義から反對する者もあるかも知れないが、日本の輸出の六割以上を占むる大切の國產品を販賣するためには、利己一點張りの不正製絲家や問屋庸懲のためにも是非共斷行せねばならぬ。さうすれば日本の生絲の値段は一割位高まるのは雜作もなく、相場師の手品に利用せらるゝことも少く、養蠶家として一番頭を惱ます絲價の烈しい變動を大いに阻止して絲價の安定を來すことが出來る。今日の樣に絲價の變動に烈しくては養蠶家は全く溜まつたものでない、相場をあまり高くするのは結局反動安が來て、損害を一番蒙るのは養蠶家だから、養蠶家としては寧ろ相場の不拍子(ふびやうし)に高いのより相當の値段に安定する方がどの位安心で利益か知れない。

工業的農業の實例はまだある。伊太利では葡萄を生果のまま賣らないで、葡萄酒に釀造して賣る。丁抹では甜菜を農民自ら砂糖に精製する。兩國共何れも農家の共同事業として產業組合で大規模に製造し、又產業組合の手で內國は勿論遠く海外にまで輸出してゐる。丁抹の產業組合聯合會はロンドン、ニューヨークに出張所があるし、立派な運送用の汽船まで所有して居る。

以上でヨーロッパやアメリカの工業的農業の樣子は略ぼ解かつたに違ひない、どうしても今日世間で八釜ましい農村振興や農家の繁榮を來すには、今迄の樣な原始的の單一農業では日本の農家も到底經濟上に立ち行かないから、今後は農業の經營方法を變更して、前に述べた樣な工業的農業にすることが急務、之れには先づ從來の單一農業を改めて畜產を出來る丈盛にして肥料を作り、勞力の分配をよくし進んで產業組合の力により生產品を出來る丈共同的に加工して共同販賣をせねばならぬ、工業的農業は日本の農村及農業の將來進むべき唯一の活路である。

然らば此の工業的農業が日本に全くないかと云ふに唯一つあり、然も此れはフランスやイタリー等のヨーロッパの養蠶國が試みて失敗し、日本が唯獨り成功した世界に有名な仕事である、之れは何であるかと云ふに此れから茲に御話しようと思ふ組合製絲である、組合製絲は實に日本の農民が否日本が世界に誇りうる唯一の日本特有の工業的農業である。

第二章　組合製絲の話

蠶絲業の革新案

組合製絲の話をする前に、順序として先づ蠶絲業の革新案に就て述べて見よう。

我國蠶絲業の根本的革新案を詳しく述べるのは、此の小冊子のよくする所でないから、詳細は拙著「如何にして農民は生くべきか」を參照せらるゝこととして、茲には其筋書丈を説明すると、

一、生産費の節減

1 養蠶方面。桑葉及勞力の節約として、蠶兒をして桑葉を全部食はしむる方法を研究すること。從つて給桑回數を半減し、將來の勞働問題として養蠶に最も禁物である夜業を廢し、勞力の大節約をなすこと。尚養雞に於ける産卵品評會や、乳牛に於け

るコントロール組合の如き研究により、桑を食ふこと最も少くして絲量多く解除良好に、デニール整ひ光澤よき繭を作る蠶兒を發見すること。

2 製絲方面。現在の一釜一工女と云ふ如き高天ヶ原式原始的工業に一大革命を加へ、一人の管理者をも要せざる水力發電所程ならずとも、一人にて容易に二十釜以上を繰絲しうる機械を發明すること。

二、製絲及輸出の主體

1 製絲の主體は營業製絲及組合製絲の二系統として相競爭せしめ、全國產繭を三分し大約三分ノ一を組合製絲、三分ノ二を營業製絲が占むること。

2 輸出の主體は現在の問屋及輸出業者を轉業せしめ、營業製絲は個々又は共同的販賣組合を作り、組合製絲も全國大聯合會を組織し、アメリカ又はヨーロッパに各出張所を設け直接輸出をなすこと。

三、製絲家の大合同

營業製絲家は個人たると會社たるとを問はず、少くも一萬釜以上を單位とし、現在の紡績會社程度の數に減ずること。

四、組合製絲の大聯合

養蠶地方の各府縣に郡又は町村を單位とし、組合製絲を組織せしめ、一郡又は一府縣を單位として聯合會を作り、而して生絲の輸出販賣は全國的の大聯合會に一任すること。原則として養蠶家及自己の收繭の三分ノ一乃至二分ノ一以上を組合に提供すること。

五、國家の施設　其主なるもの

1 優良蠶種、飼育術及製絲技術の根本的研究。

2 輸出生絲の檢査、即絲格の國檢。

3 低利資金の供給。

六、生絲のヨーロッパ進出、現在のアメリカ本位の方針を變更し、ヨーロッパ向の生絲

卽前述の方法により生產費の大節減を計り、價格の安い生絲を作り、ヨーロッパ人の嗜好を考へること、日米戰爭の如き一朝有事の際をも考へ、平素よりシベリア鐵道によるヨーロッパ並にアメリカ行の生絲の輸出を實行すること。

結論としては現在の絲價を半減し、人絹は勿論綿絲とも價格の競爭をなすこと。今日の如く絲價委員會が價格の釣上げのみに熱中する樣では、製絲工業及養蠶業の發達を阻止し、更に輸出生絲の前途を阻害するのみで、溫室育ちの方法にすぎない。絲價委員會の根本方針に蠶絲業の生產費を節減し、安い善い生絲を生產して販路を擴張するにある。今日の如く絲價釣上げのみを策する封建的經濟政策を執るならば、生絲は遠からず人絹に驅逐されてしまふに違ひない。

組合製絲は養蠶家が自ら作つた繭を自ら共同的に加工製絲して賣る仕組で、繭として原料品で賣らないで、中間の商人や製絲家の不當利得を排斥して養蠶の利益を全部農民が收める方法である。此れこそ前に述べた立派な工業的農業で、養蠶家が自覺すれば當然組合製絲を作るべきであるがまだ多くの養蠶家は盲目滅法だから、寶の山に入りながら、手に握つて居る金銀財寶を捨てゝ歸る樣なものである。

組合製絲の利益

先づ組合製絲の經營法を說く前に其利益を擧げて見ると、

1　**桑園の眞の改良は組合製絲でなければ出來ない。**

養蠶の根本は桑園である、近頃飼育上や絲質の上から桑園の改良の急務を叫ばれるが、今日の樣に繭で賣買して自分で製絲しないでは水桑でも食はせて繭量を多くすれば得策と心得て、到底桑園の改良をして根本的に繭の改善を計る樣な遠い考は出て來ない。一旦賣つて仕舞へば後は野となれ山となれだから、製絲家も同樣互に所謂ハメルことのみに熱中する。然し若し組合製絲になつて自分の繭を自分で製絲する樣になると、善い桑

を蠶に與へれば、絲量が多く絲質がよくなり結局自己の利益だから、自然桑園の改良も一生懸命になる、所謂自分の家は叮嚀に住むが借家は荒らすと同じ人情である。

2　蠶種の改良統一及飼育技術の進歩が出來る。

組合製絲で共同的に製絲すれば繭の種類が成るべく同一でないと、製絲上不利だから自然改良もすれば統一も出來る、飼育技術の進歩するのは組合製絲になれば後述する樣に組合員の提供する繭に對し共同的に等級を定めるから、品評會も同樣で御互人間は競爭心があるから又利益であるから繭で賣る場合より一生懸命になるのは當然である。

3　農家經濟として非常に利益である。

生繭賣買の慘目（みじめ）のことは能く御承知、折角汗水流して獲た長い月日の骨折を一日で失ふも同樣、繭を賣る時は勿論、蠶を飼ふ中からの心配と骨折は大變である、元來農民と云ふものは賣つたり買つたりすることは一番下手であるから、斯樣のことは產業組合を利用して共同的にやるに限る、さすれば共同の力で商人が頭を下げてくるから云はば商

人に賣つてやり又商人から買つてやると云ふ態度になる。然し若し個人個人で賣つたり、買つたりすると商人に買つて貰ひ又賣つて貰ふことになつて到底勝目はない。殊に生繭の如き時間を爭ふものは尙更である、次に農家として繭で一時に賣ると自然收入が一度に入れば腹が大きくなり濫費に流れ易い、養蠶の如き仕事は生產費が一年を通じて澤山にかゝるに拘はらず、繭を賣つた時は皆儲かつた樣な氣になつて、收支の計算が解らないから得て贅澤に流れ易い。養蠶亡國論は此の點からで、段々甚しいのは來年の收入を目當てに借金生活をやる。此れを組合製絲にやれば一年中平均して生絲として賣るから、賣る方法としても平均して安全であり、收入が一時でないから使ひ方も氣をつける。且つ又加工製絲して賣るから利益も繭で賣るより大きいから、農家の個人經濟として大なる利益である。

4　所謂乾繭倉庫は組合製絲よりも養蠶家にしては不利益である。

政府は乾繭倉庫事業を大變手前味噌を並らべて居るが、組合製絲より遙に養蠶家に不

利である。其理由は元來繭は乾燥すると生繭より安く買はれるもので、製絲家には片倉は片倉郡是は郡是と各獨特の乾燥法があつて、乾燥は製絲技術中の秘傳だから又製絲の時期によつて乾燥の程度は自然異るべきであるから、製絲家としては乾燥した繭を買ふことを喜ばない故に安く買ふ。併し何故製絲家がそんな乾繭倉庫を政府に迫まつて莫大の補助をさせるかと云ふに、此れは要するに繭の出廻り時期に莫大の資金を要し、然も一年の所要繭を出廻り時期の僅かの間に買ふ結果相場の危險が多くなるから、製絲家の立場としては養蠶家の負擔で保管してくれる乾繭倉庫は全く便利で、入用の時買つてくればよいのである、製絲技術上の損失は繭を安く買へば濟むことだから、製絲家の腹は少しも痛まない故に乾繭倉庫は主として製絲家本位と云つてよい。

唯養蠶家としても生繭の一時の賣買より乾繭は一時的の退却陣地となるから、利益の點もあるが然し組合製絲を設けて製絲すれば此れに越したことはない。要するに乾繭倉庫は中途半端の仕事にすぎない、殊に政府の方針の如く都會地にのみ設置を許すものと

するならば、益々養蠶家の利益より製絲家本位と云はねばならぬ、然るに此の乾繭倉庫に四割の補助があるのに之れ以上の仕事をする組合製絲に一毛の國庫から補助がないのは全く言語道斷の沙汰と云つてよい。近來例の絲價補償法の適用が一向効果をもたらさないので、蠶絲家の救濟策として、乾繭を奬勵するために、養蠶家の乾繭に對し一貫目につきいくらと云ふ補助金を出せばよいと主唱する人々があるが、此れも仔細に内幕を檢べて見ると、製絲家側の宣傳で乾繭倉庫の奬勵補助費と全く異工同曲である。全く營業製絲家本位の議論である。

5　絲價補償法は枝葉末節

絲價の暴落に際しては此れを防ぐために、絲價補償法と云ふものがあつて、一年三千萬圓の限度に於て政府が絲價維持の爲めに補償する法律があり、現に目下發動中であるが、此れも所謂膏藥張りの價値しかない微力のもので、到底蠶絲業の健全な發達を招來しうるものでない。論より證據大騒ぎをして目下施行して居る補償法の効果は如何にと

云ふに、千二百五十圓を標準に補償法の適用をしてゐるに拘はらず、絲價は既に八百圓を割らんとしてゐるのでも解る。全然効果がないと云ふばかりでなく荷は益々溜まるし、此の爲めに却つて相場の不安を將來に殘すから、卽補償法の撤廢後の先約が出來にくいから、總計算に於ては無効否有害となるに違ひない。元來物價を人爲的に釣上げ樣とすることは經濟の原則自然の大勢に反することで決して永續するものでなく、其反動は寧ろ怖るべきものがある。從つて自然に任せる方が一時は危く見へるけれども、結局は大體に於て有利なので、相場も早く恢復する。且又今日の絲價補償法の適用の如きは、生絲を擔保として貸付をした銀行業者の救濟が主で、次に問屋製絲家で、養蠶家の利害は最後に考慮されるやうな倒施逆行の有樣では、國費の浪費と云ふの外はない。如斯人爲的の施設に使ふ此の三千萬圓の補償金を組合製絲の發達にでも使へば誠に立派な經世濟民の仕事が出來るのである。

6　國家經濟として大なる利益である。

生繭で賣れば自然粗末になり、製絲家の利益づくから折角の繭も充分に製絲しないから、又養蠶家も個人主義一點張りになるから、國家の全體としての利益は大に減ずることは當然だし、前述した樣に桑園の改良飼育技術の進步等卽養蠶全體の進步發達は期し得られないのである。

7　農村の健全なる發達を圖る上に。

唯に經濟上の利益ばかりでなく、隣保共存の上から團結的精神の涵養上得る所は實に大である、團結の最も强い要素は矢張り經濟的結合に其基礎を置く、人間は矢張り結局利害の打算が一番早いから經濟的に結合するのが一番强い。一言にして云ふと養蠶地方の農村では此の組合製絲さへうまく行けば農村の振興も立所に出來る、全く扇の要である。

利益の說明は此位にして反對論を紹介しよう。

組合製絲反對論

如何に善い仕事にも反對論はある。此の反對論があるからとて、悲觀する要もなければ又ムキになつて怒る必要もない。元來反對論のあることは物事の發達上極めて必要で世の中に賛成論ばかりあるならば此程危險の事はない。反對論があればこそ、研究もすれば警戒もして益〻完全のものにしようとし、又間違ひのない樣に注意する。卽反對論は物事の發達上善い刺激であり、警戒標であり、工夫の母である。立憲政治の完全なる運用には、反對黨の存在が絶對の要件であるのは此の理由である。

組合製絲反對論の第一は製絲工業の如き複雜のものを農民の團體たる素人がやるのは危險至極で、矢張り農民は養蠶さへやつて居ればよいので、製絲家が儲かるからと云つて、製絲家の眞似などするのは思はざるの甚しいもので、社會の發達は分業にあるのだから、養蠶だけ一生懸命に農民はやるのが一番安全であると。

一應聞えた議論の樣であるが、元來製絲工業を非常に六ッケしい工業に考へることが根本の間違ひで、工業としてはバルブや、人絹や乃至綿絲工業に比してさへも寧ろ遙に簡單のものである。論より證據工女は農家の子女なら誰でも出來る仕事であり、機械と云つた所で極めてありふれたものである。工場の經營としても、如斯普遍的の工業であるから、左程六ッケしい事はない。最も其中で比較的厄介な繭の買付と絲の賣込とは、組合製絲では繭の買付の必要はなく、組合員の提供繭が原料であり又絲の賣込は大本山の生絲販賣組合聯合會があるから、心配はいらない。又工女工男の募集にした所で組合員の子女で有り餘る程ある。資金は中央金庫、生絲販賣組合聯合會始め府縣の信用組合聯合會が融通して、利子も日歩三厘見當市場利子よりも安く得られる。あらゆる點に於て營業製絲よりも寧ろハンデキャップが多すぎる位である。

論より證據、後述する樣に長野縣の營業製絲と組合製絲との比較でも明瞭の樣に、組

合製絲の方が遙に善い成績を擧げて居るではないか。成る程組合製絲にも各府縣で失敗したものがないとは決して言はない、失敗したものも勿論ある。此れは要するに組合の理事者が組合法に違反して繭を買つて、營業製絲の眞似をやつたのが其の主たる理由で、如何によい組織でも要するに事業は其人にあるから、其人を得なければ失敗する。此れは獨り組合製絲に限つた事でなく、營業製絲家の失敗は遙に多數で、其率から云へば組合製絲の何十倍か解からない。現存の營業製絲でも四苦八苦のものが五十パーセントは愚か七八十パーセントある事は世間周知の事實で、寧ろ今日我國製絲業の發達を阻止し、生絲貿易の前途に大なる暗影を投げるものは此等群小の營業製絲家にある事は識者の一齊に肯定する所ではないか。今日の如く生絲貿易に大なる影響を來し、爲めに養蠶業の根柢にまで動搖を生ぜしめた原因の大半は、此等製絲家の組織なき無軌道の我利我利行爲の結果と斷定して決して過言でない。

組合製絲の經營法

1 設備

設備は倉庫乾燥場、製絲工場、工女の寄宿舍、事務室等で倉庫と乾燥場は火災に心配の出來る丈少い樣にすること、乾燥は製絲技術上最も肝要の事だから充分善い經濟的のものを買ふ。工場寄宿舍事務室の建築は實質主義で、虛榮を張ることは嚴禁する、事務室など始めから立派に建てた組合に成功したものはない。元來設備や形式に虛榮を張るのは內容がないから、せめて外形丈でも嚇かさうとする淺墓のやり方で、設備や形式が立派に出來ても五十馬力の機關で百馬力の機械は運轉出來ぬから、骨が折れて結局重い荷を負つて坂路を上る樣なもので失敗するに定まつて居る。よく新設の組合で他の先進地方を視察して一番善い設備を金を澤山かけてやつたはよいが、資金が足らないし、經營の頭がまだ幼稚だから即事業の經營に最も大切な經驗がないから、機械は具はつて車

は動かぬ樣の譬へ、凡そ物は其の發達に順序があつてローマは一日には出來ない。だから眞に物の發達した地方に行くと設備や建物は寧ろ粗末のものが多く、段々につぎ足した樣な具合、古いのと新しいのとゴッチャである。卽ち物の發達した順序がよく解かる。有名な諏訪の岡谷の工場を見てさぞかし其意外に驚くに違ひないし、然も立派に後から出來た各府縣の新しい工場は倒れて、片倉の古ぼけた工場の益〻隆々たるのは何を物語るか、自分はロンドンのタイムス新聞の工場を見て矢張り同樣の感を懷いた。此の點は新に工場を經營する人々の大に心すべき點である。

2　組合製絲の區域

組合製絲の區域を町村單位にするか、數箇町村單位にするか或は郡單位にするか、此れは近頃なか〳〵議論のある問題で、又組合製絲の成敗に重大の關係ある根本的の問題である。固より此の區域の大小に關する議論は、其地方の產繭額に大なる關係があつて、產繭額の少い地方では勿論町村單位など出來る筈なく、數箇町村か若くは郡單位より方法がないのである。次に又此區域問題と關聯して起る問題は、組合製絲は何釜位を經營の一單位とすべきかの點で、大區域論者は必然的に大釜數論者である。先づ大區域論者の說を述べると

製絲工場の經營としては少くも二百釜以上を要件とす

卽製絲工場を經濟的に經營するには、どうしても二百釜以上が必要で、五十釜や百釜では製絲費用が割高になり、到底採算が有利に出來ないばかりでなく、製絲の技術的改良も思ふ樣にならない。殊に生絲の賣込の點から見ると、五十釜や百釜では容易に荷物が纏まらないし、從つて平均賣が出來ないから、相場の波を食ふことが多く、且又生產高が少いのと信用も低く値段も品質以下に扱はれる。兩々相俟つて餘程不利益であると。

此等の議論は一應尤もであるが、自分は永年の觀察から大體區域問題、從つて釜數問題は次の樣に考へるのが穩當であり又さうせねば失敗する虞が多いと思ふ。

1　先進地の場合

上州南三社、埼玉社、龍水社、伊那社の如き比較的先進地の所では、最早町村單位を擴めて三百釜乃至五百釜程度の區域にまとめてよいばかりか、まとめる方が必要と信ずるものである。卽此等の地方は既に町村單位の組合として、一應必要な組合製絲の經營上最も大切な經驗と利害を或程度迄體得してゐるから、三百釜五百釜の工場とし區域として心配はない。否寧ろさうすることが製絲經濟上から最も必要である。而して從來の各町村の組合工場は寧ろ供繭組合の事務所にして必要の部分を存置し、主として供繭の際此れを活用し、組合員は繭を此の供繭場まで持參し、供繭場からは組合製絲備付のトラクターで巡廻蒐集すべきである。斯くすれば大區域論者の主唱する如く、製品も統一し能率も增進し、製絲費用の節約も出來るのである。上州南三社埼玉社龍水社等の所屬組合は今や從來の小區域小工場より、大區域大工場組織に速に轉換すべき運命を持つて居る。と云つて一足飛びに千釜にせよと云ふのは暴論で矢張り二三ヶ町村地理的並經濟的に關係の深い町村が合同して先づ三百釜乃至五百釜程度にすべきである。

2 後進地方の場合

後進地の場合區域を廣くしたものは、大體に失敗して居るか經營上常に困難して居る。故に此の場合は五十釜乃至百釜を單位として、區域も產繭額の許す限り小區域がよい。組合製絲經營の經驗のないか又は少い地方で、始めから釜數を多くするに從つて區域も一郡單位位となるから、

イ、組合員の訓練なく、組合員相互の信用は勿論組合に對する信賴の度微弱なるにより供繭意の如くならず、釜數に必要な丈の繭が集まらない。

ロ、設備が出來ても此れを經營するに適當の人材がない。卽五十馬力の機關で百馬力の機械を動かす樣な目に遭ふ。

ハ、創立早々資金難の際に固定費に多額の金を要し、其の上に釜數の多い程貸付金其他運轉資金を多額に要して、結局資金難に陷り無理をすること。

大體此等の三原因が錯綜して、繭が集まらないと折角多額の費用を掛けて釜が遊ぶこととなり、組合員の不信を買ふし、止むなく組合製絲に最大禁物の繭を買入れたりする樣な危險に陷り易い。又資金の調達は新規事業丈に又組合員及社會の信用も當初は薄いから、借金をするにも骨が折れて利息高になる。更に最も困ることは最初から組織が大きくなると營業製絲の場合と異り、到底農村には經營に適當の人材がない。

從つて自分の意見としては、創立時代は五十釜か精々百釜位に始め、區域も養蠶の盛んな地方を中心として、理解ある分子から餘り區域を廣くしないで仕事を始め、一年二年三年と次第に經營にも慣れ、組合員の理解も出來、成績も些少擧つて組合員が安心する樣になつてから、工場も漸進的に擴張し、區域も廣むべきである。又一郡一府縣に最初は一つ立派のものを作れば結構で、此の一の成績が最も肝要である。此の一が成功すれば後の五乃至十は必要に應じて直に出來る。然し此の一つが失敗すれば他の出來うべき十が容易に出來ない。從つて最初區域や組織を大にして始めることは、組合製絲の普及上からも、成功上からも大に考ふべきことである。而して漸進的に同一地方に七個以上の組合が出來たら、先づ聯合會を作り、製品を統一して龍水社の如く共同出荷をする。又七に達しなくとも任意的の聯合共同事業はいくらでも出來るから、共同出荷をすればよい。

斯かる漸進的の方法に依つても大區域論者の唱ふる缺陷を或程度迄補ふ事が出來る。卽賣込の點であるが、此れは前述の生絲販賣聯合會に委托すれば、品質相當に賣ることは困難でないし、資金融通の道も開ける。製絲技術の點や其他の經營上の點に就ても聯合會の指導を受くればよい。聯合會の力で或程度迄救はれるのである。同時に又利害は要するに比較の問題で、大區域主義に依つて初心者の失敗する危險と不利も頗る大であるから、所謂遲くとも堅實なれで、共同事業であり農村としては經濟の大きい仕事である以上、費用は少し多く費しても堅實主義がよく、畢竟十年平均して生繭で賣るのと何れが利益かが主たる論點であるから、後進地には小規模說を御勸めする。而も相當經驗

と年月を積んでから漸次大工場組織に進むべきである。

3　經營方法

組合製絲にも現在色々の方法があり、實は先に始めたもの程現在其經營方法が後れて居る傾がある、卽坐繰製絲から機械製絲になつた上州南三社のやり方が一番後れて、ずつと後から出來た龍水社伊那社普及社等が比較的進んで經濟的にやつて居る。上州南三社の多くは坐繰時代と同じく依然たる持寄製絲で、各養蠶家が各自乾燥するか或は共同に乾燥しても自分の家に保管し、持寄つて各自製絲するのである。斯かる方法は時代後れの甚だしい遣り方で、組合製絲としてはどうしても組合員の繭を收繭したら、直に組合で受付け、口びきと云つて其中一二升拔き取つて、肉眼及絲質絲量檢査をして其繭に等級を付した上は共同に乾燥して倉庫に混合保管をする。而して製絲の場合には組合の繭として、絲況に應じて繭の等級種類によつて加工する。例へば聯合會の龍水社から所屬組合に對し、絲價の狀況により七月一日から十五日迄は白繭の一等繭を繰く樣に通知し、

八月一日から十日迄は黃繭の一等繭を繰く樣に通知する、さうすると聯合會に絲も揃つて販賣上も非常に利益である。各所屬組合まち〳〵に繰くと、絲も揃はないし從つて荷が出來ないから問屋に賣ることが出來ないで絲は出來て金はとれず、爲めに賣却の時機も失して大變損失をするし、組合員に精算も自然遲れる。よく日本の農家に多い惡い僻である自分の繭が一番よいなどゝ間違つた考は打破らねばいかぬ。工女は成るべく組合員の子女がよいが、家庭から通勤させないで寄宿舍に收容する、通勤させると緊張しないで能率が上らない、而して工女の數は百釜なら少くも一割の豫備工女を置いて始終釜の空かぬ工夫をやり、豫備工女が居ると工場が一般に緊張して、能率も上れば仕事の出來もよい。組合製絲としては經濟的にやる事がどうも個人製絲に劣り勝だから、此の工女の能率增進、引いて製絲經濟の改善に就ては石炭の購入や炊き方から荷造り迄大に研究せねばならぬ。製絲經濟の上らぬのが組合製絲の一番の弱點である。

工女を寄宿舍に收容するに就て風紀上反對される組合員もあるが、却つて農村で朝早

く夜遅く通勤するために危險も起り易い位である。此の點から云ふと自分は組合製絲を農工補習學校として寄宿舍なり、組合敷地内に住宅を建てゝ小學校敎員の優秀な夫婦者に住んで貰ひ、夜間寄宿舍の暖い所で裁縫讀書等を敎授して貰ひ、晝間の作業は工業の實地授業とし、小學校卒業後四箇年位の科程にしたら、工女生活の大缺陷である補習敎育も出來、賃銀も得られて工女としては一擧兩得である。元來組合製絲の如く自己の繭を自己の子女が繰くのを工女と云ふのは失當で、寧ろ農工補習學校の生徒と云ふのが適當であり、農工補習學校の卒業生と云へば御嫁にやるにも好都合、而して町村では補習學校の費用を組合で負擔するから大變助かるし、敎員も住宅なり組合からの手當も學校より多くとれるから喜ぶに違ひない、誠に一擧兩得の施設である。

茲で考へたいことは、元來工場の經營を物質的にのみ考へることの大間違ひのことで、近頃八釜ましい產業合理化の眼目である工場の能率を增進する根本の要件は、實に精神的方面にあることを忘れてはならぬ。卽工場の經營としては主腦者が從業員の精神敎育を深く考へぬ所には、終局に於て眞の能率增進は斷じて期待出來ぬのである。賃銀を增すのも勿論よいことではあるが、近頃先き走しつた淺薄の勞働運動者の口ぐせに唱ふる賃銀の增額丈で、決して工場の能率增進は出來るものでなく、勿論能率增進の一の條件ではあるが、根本は從業員の精神敎育にある。自分は元來工場經營は工場を一の社會敎育機關として見た時に始めて眞の能率增進があり、相互共榮の實が擧がると思ふ。從つて組合製絲は農工補習學校として、從業員の總體としての社會敎育を施しうる點に於て物質以外に大なる貢獻がある。而して形式敎育の弊に極度に惱んで居る今日の敎育の救濟としても最も意義ある有効の敎育方法である。理論に走り實際に遠ざかり、活社會向でないことが現代敎育の通患であるから、斯かる實習に卽した勤勞中心主義の敎育は何よりも結構と云はねばならぬ。斯かる意味から特に農村の繁榮幸福を大目的とする組合製絲の如き農村の產業機關としては、主腦者が從業員の敎育と云ふことを充分に頭に置いて此の敎育卽從業員の修養方面から能率增進を圖ると云ふ風に考へて貰ひたい。

其方法としては組合長自ら其衝に當るもよし、又他に人格者を招いてやるもよい。實例としては三重縣の組合製絲五十鈴社の如きは此の方法に依つて工場の經營に大變成功して居る。五十鈴社は後藤靜香氏の修養主義に則つて同氏の直接の薫陶により、男女の從業員は云ふに及ばず、幹部迄一團となり希望學園と稱して、始業前及終業後に一定の行を行つて、精神修養に努めて居る。五十鈴社が後藤氏の薫陶を受けてから、從業員の執務振りは次第に一變して、一切が感謝生活となり、其仕事に蔭日向なく、從業員一同嬉々として働く樣になつたから、仕事の能率は非常に擧つて來た。卽彼等は上から鞭撻されて働くのではない。所謂驅使されるのではない。自己の仕事として、自分自身の人間を出來るだけ完成させるために働くのである。盲目的に、機械的に强いられて働くのでは人間として實に無意義であり、氣の毒の至りである。一の確固たる目標目的を持つて働くならば、所謂樂んで働くことが出來る。五十鈴社が昭和四年の秋生絲の暴落に際し、他の色々の工場ではストライキを起して賃銀の値下げを防止した時に、從業員一同より五十鈴社全體のために賃銀の二割値下を幹部に申出で、流石の幹部も、涙を以て感激し、斯かる必要はないからと云つて値下の申出を謝絶し、結局兩者の誠意と感激の裡に一割丈貯金をして、從業員は此れを無きものと思つて働くと云ふことによつて解決したさうである。世を擧げて勞資の醜い爭議に沒頭して居る際に何と床しい美談ではないか。

吾等の事業は算盤が總てではない。他に更に偉大なる社會的の大目的を事業の裡に持たねばならぬ。

4　生絲販賣方法

生絲の販賣方法は成行賣を嚴守する。先賣りは組合製絲の一番の禁物で、若し絲價の變動を心配して先賣りなどすれば組合破滅の基で、決してやつてはならぬ。元來組合製絲の繭には値段がないのが特長で、たとへ三千圓で先賣しても三千五百圓になれば組合員の騷動になるし、組合製絲の繭は營業製絲でないから、成行で賣つた時の値段が値段

で決して原料を提供した時の價格が繭の價格でない。又長い間の經驗によると、相場に動かされて心配して色々に賣るよりも、成行相場で賣る方が、十年平均すれば一番利益の方法で、色々に頭を使ふ人間が結局相場の大波には勝てないで、少し儲けて大きく損をするにきまつてゐる。營業製絲なら六・七圓で買つた繭を工賃利子を除いて七・八圓に仕切れゝば、先賣しても構はぬが、組合製絲の繭は値がないからさうは行かぬ。成行賣が大賢は大愚に似たりで最上の方法、然し成行賣の豫約は先賣と違つて又最も安全な賣り方で、例へば新絲の出廻り時期に、十一月渡しエキストラ格で何千斤賣ると約束することで、組合も安心であるし、買ひ手も織物工場の工程の關係上安心であるが、信用あり實力ある組合でなければ約束通りの品が期限に出來ぬ場合があるから容易に成立ぬ。

組合製絲の經營上最も注意すべき點

組合製絲の經營上注意すべき點に就ては前に色々說いたが尙ほ要點を述べると

1　釜數と供繭量の比例すること。

組合製絲の經營の健全なりや否やを知るべき最も確かな目安は、組合の釜數と組合員の組合に提供する繭の數量と、比例するか否やを知ることで、組合員の供繭量が組合の釜數より少々餘分で、繭として時期を見て少し賣る位が經營上最も安全である。釜數に比べて繭が少いと釜を休むことは工女の足止め上、工女の爭奪が相當に烈しいから、組合として苦しいことであり、又製絲經濟から見ても不利益であり、釜の空いて居ることは他の工女の能率上にも大に關係する。尙ほ又組合の理事者が組合員や他の組合に對しても面目ないから、稍もすると其切なさに繭を買ふことになり易い。若し組合が繭を買ふと既に此れは組合製絲でなく營業製絲であり、組合法に大に反するばかりでなく、元來組合製絲は多數養蠶家の團體で、商賣人たらざる點が寧ろ其長所で强味であるのに、繭を買ふ時は自然損益の問題となり、儲かつた時は理事者が組合員にも鼻が高く又組合員も默つて居るが、一旦損失をした場合には共同團體の常として大騷ぎ、理事者は非難

攻撃を浴びて苦しい立場になり、結局組合製絲として最も大切な組合員間に動搖を來し、繭を組合に出し澁る樣になり、原因結果相互に作用して遂に解散の憂目を見るに至る。繭を買つて製絲すると自然理事者は思惑を試むることゝなり、組合の經營が得て投機的となり易く、組合製絲の經營の根本方針たる地味と眞面目を缺く樣になる。此れは組合製絲經營の深憂で從來各府縣の組合製絲の失敗したものゝ原因の多くは繭の不足より繭を購入したためである、組合製絲としては斷じて繭を購入してはならない。

組合の釜數を定むる場合に必要のことは、先づ區域内の生産繭を調査して一町村ならば其町村内の生産繭の二分の一を標準として當初は釜數を定め、若し數ヶ町村或は郡區域ならば三分の一或は五分の一、十分の一と區域の廣い程内輪に釜數を定める必要があり、町村單位の組合で町村全部の生産繭を標準として失敗した組合は仲々多い、これは繭や生絲の相場につれて、繭の出し方も非常に影響されるから、内輪に見積つて置き、組合員の訓練が出來るにつれ、漸進的に擴張し三分の二位迄にすることが肝要、三分の二以上に擴張することは禁物で、少し釜數の不足する位が組合の經營としては堅實で、理事者の立場も樂である、繭を餘り勸誘して集めると理事者引いて組合の立場は苦しくなる。十四デニール中心なら一釜當り二百五十貫乃至三百貫、二十一デニール中心なら四百貫乃至五百貫位を標準とする、固より土地の狀況により繭の質により或は作柄によつて多少の相違はあらう。

2　組合製絲は委托主義が本則で買取主義は組合主義に反する。

前述の繭の購入と異つて、組合員の供繭を奬勵し容易くさせるために、組合員の繭を組合に提供させる時に、時價で組合が買取る所がある。此れは組合の經營上或一種の便法としてやつて居るが、組合經營の本則から云へば間違つた方法で、組合製絲は委托主義が當然で、先にも述べた通り、組合製絲の繭には値段がないのだから、提供した時に市價で仕切るなどは、組合を營利事業と同視する考で、組合製絲の根本精神たる互助主義共存主義に背き、組合の經營を危險ならしむるものである。組合としては當然組合員

の委托を受け、決算は年度末精算後なすべきもので、唯組合員の提供した時に其繭を擔保として相當の融通をするのは、組合員の經濟を救ふ上によいことである。

3　貸付は供繭量の八割以内たること。

組合員が繭を組合に提供した時の貸付金は多くとも、市價の八割以内とせねばならぬ。此の資金の融通が多いと相場に變動が多いものだから貸越しとなり、經營上損失を來すことゝなる、殊に組合の理事者自身が稍もすると多額に金を借りたり、又情實に流れ易い所から、組合員に八割以上の融通をすることがあるが、此れは組合規約として嚴重に取締るべきである。

此貸付に對して利子を取るが、よく組合員中には繭を出したに拘はらず利子を取るなどは不都合だと云ふ者もあるが、此れは云ふ人が無理で、出した繭は費用を掛けた上に、まだ生絲として賣れない中は、賣上代の配當のないのは當然で、供繭と同時に又其後に金を借りるのは繭を擔保とした借金であるから、利子を拂ふのは當然である。此利子は普通の信用組合の利子と同樣にするのが組合の經營上よいことで、安きに失すると不必要なのに貸出が多くなり、從つて組合の資金に困難を感ずるから注意を要する。

4　組合員の生産繭は全額提供を本則とする。

組合製絲經營の要點は前述せる通り、供繭が釜の量力以上少々多くて、相場を見て善い時に餘る繭は賣る位にするのが一番賢い方法であるから、組合員は自分の生産繭を全部組合に提供し、理想としては屑繭迄組合に出して、組合の手により競賣するのが利益である、若し釜數が供繭高に比べて少い場合でも組合に繭を全額出し、個人賣りをやめて、組合が共同的に時機を見て賣る方が結局利益である。組合員が自分の生産繭を出す量の多い程組合は健全である、組合に加入しながら繭の安い時には組合に出し、繭の景氣の善い時には賣る樣な不信實な組合員がよくあるが、此れは本人としては一見悧口のやり口の樣であるが、相場の高低はなか〳〵素人に解るものでないから、十年平均して見ると、目をつぶつて組合に出す人がつまり勝利を得るのは面白い過去の實驗である。

組合を利用して繭賣りをする樣な組合員はやはり獅子心中の虫で、組合破壞の不良分子、十年平均の考で組合員は相互に組合を保護する考がなくてはならぬ。先走る小才子は一寸悧口の樣に見ゆるが、結局身を亡ぼす馬鹿者で、コセ〳〵する人間に大金を儲けた者はない。

5　工女を優遇すること。

日本人の惡い癖は少く金を出して、多く働かせようとするにあるが、工女は組合の仕事の生命であるから、先づ食物は出來るだけ滋養物をとらせ、喜んで仕事をさせるに限る。殊に組合製絲は工女も組合員の子女で一心同體だから、營業製絲によくある肺病患者の巣窟にしては農村の滅亡である。組合製絲は製絲をして利益を得ると共に、子女の敎育保健にも大に注意せねばならぬ。夫れには寄宿舍の食事や生活を衞生的にし、特に浴場の設備は清潔にして、一日の勞苦を忘れて愉快なる氣持になる樣にする。化粧室なども女子だから心地よく設備してやる。組合員の子女を働かせることは營業製絲の及ぶべからざる組合製絲の偉大なる長所である。

6　組合製絲は信用組合を經營すること。

組合は創設時代は勿論、設備費や運轉資金に農村としては比較的大金を要するから、此等の資金は是非共組合事業の本則として、組合員の出資によるのが、健全な經營法であるが、實際としては此れ又至難のことであるから、信用組合を兼營し、一方繭を擔保として八分金等の貸付をすると同時に、組合員の預金を預つて組合の資金に利用する。始めは組合員は是非共入要の如何に拘はらず、安心のために金を借りたがるものだが、愈々組合事業が確實のものと思へば八分金の借り出しもしないし又借りても直に預けるし、配當金の預金も多額に上るものである、養蠶家に最も必要な組合員の貯蓄心涵養の上にも信用組合は是非共必要である。而して後述する組合の聯合會が出來たら、信用組合の聯合會も兼ね、御互に相利用する。信用組合を兼ねてゐないと、組合員は現金を受取ると自然使用したくなるから浪費に流れ易い、故に信用組合を兼營して八分金なり、

配當金なり、總て預金帳に記入して渡す樣にすれば、組合員の貯蓄涵養にもなるし、又組合も一々現金交付の要がなくなり一舉兩得である。

然るに此の信用組合の兼營に農林省當局が反對であるのは誠に遺憾至極で、畢竟組合製絲經營の實際に通じないからで困つたものである。歷代の農林大臣や政務官は固よりであるが、農林省當局でも外國の產業組合は成程飜譯的に解つて居るが、此の日本生えぬきの組合製絲には遺憾乍ら解つて居る人が殆んどない。卽當局に此の組合製絲につき確信ある人間が絕無であるから、外部の雲行に動かされて近頃消極的贊成の程度位にはなつたものの、熱を以て此の經世的大事業に當ると云ふ樣な氣魄と熱心とは全くない。得て營業製絲の先棒には賴まれなくともかつぐ熱心家があるが養蠶大衆の爲めに陣頭に起つ志士的氣慨のある役人のないのは情けない。彼等が信用組合兼營を非とする理由は

一、生產販賣組合殊に組合製絲の如き農村としては比較的巨額の金を運用する機關に信用事業を營ましめるのは、事業會社に銀行業を兼營させると同樣危險至極である。

二、既設信用組合と區域が錯綜し、組合相互に紛糾を來すこと。

三、既設信用組合を利用すれば支障なきこと。

大體以上の三點であるが、一般事業會社が銀行業を兼營するのは申す迄もなく危險至極であるが、組合製絲は組合員のために、組合員に限つて信用事業を營むので、事業會社の如く自己の營利のため、事業會社以外の人々の預金を吸收する銀行業と全く性質を異にして居るので、畢竟組合製絲の營む信用事業は、組合員自身の事業に要する資金を預金の形式により——出資の形式に依らず——組合員自身が出すので、他の事業に投ずる危險は毫末もない。卽預金の運用が組合員自己の事業たる組合製絲に限局されて居るので然も組合製絲を許可した以上此の事業に就ては組合員は固より當局も其事業の性質を知り、範圍內容を知悉して居るので、此の事業に預金を使用する如きは最も安全で、

大きい眼から見れば畢竟自己の事業に自己の金を使ふに過ぎないのである。況んや繭を擔保として金を貸し、工場の設備賣上代金を日當てに金を預るのであるから、比較的他の信用組合よりも安全と云はねばならぬ。組合製絲に信用事業を兼ねさせるのが危險など云ふ農林省當局は一體現在の普通の信用組合の内容を御承知であるか伺ひたい。「農民は如何にして生くべきか」の愚著の中の産業組合の危機と其對策を一讀されれば、當局者も今少し眞面目に三思三省されるに違ひない。

生産事業を營む組合に信用事業を兼營させるのは危險など云ふのは、學者の抽象的原理としては一考の價値は勿論あるが、世の中の實際としては組合製絲の如く信用部を兼營させることが却つて事業の發達上よい場合があるので、其原理の適用される弊害の點を充分に警戒除去し、よい所を大に利用するのが活社會の活法である、組合製絲の經營上最も困るのは農村の事業としては資金を要することが非常に多いことで、爲めに高利の金を借りては經濟が取れないこととなり、日歩一厘の差でも製絲資金としては總額として莫大のもので、生絲資金需要期に金利が世上の論議となるのは此の爲めである。即ち安い資金を容易に安全に得る方法は、組合員自身の資金を利用するのが一番安全有利であるのは議論の餘地はないのである。

第二の既設信用組合と區域が錯綜するのは成る程善いことではないに違ひないが、此れとて何も左樣に窮窟に解釋しないでもよい。他に此れに優る利益があれば些少の不便を忍んで出來る丈其弊を少くする道さへ講ずればよいのである。組合製絲に信用部が出來たとて、其預金は畢竟養蠶關係の收入丈の預金で米麥や其他副業の預金をするのは極めて例外で自ら其限界がある。机上の論として製圖的の議論から云へば支障が多い樣に見えるが、恰度飛行機から鐵道線路や道路を眺めた樣のもので、汽車や自動車が殘らず線路の具合では衝突する樣にヒヤ〳〵するが、實際には衝突しないやうに交叉點にせよ色々の設備があつて衝突しないものである。

第三の既設信用組合を利用すれば支障なしなど云ふ議論は、全く當局が實際の事情に

盲目であるよい證據で、自分の金を使ふのと、他人の金を使ふのとの便不便、利不利位が解らぬ樣では困まつたものである。自分に金がないなら銀行なり金融業者から借金する必要もあるが、自分の金は他に預金して借金するなどは例外の場合としては兎に角決して常道でないのは議論を要しない。機關が異るために、首腦者との對人關係や色々の關係で圓滑に行かない例もいくらもあるし、又利率が高い丈でも大不利であり、組合員の金ならばたとへ利率は他と同じでも、信用部の利益となり共存共榮だから、組合製絲の發達上有利なるは言を俟たない。

前述する如く組合製絲は資金を多額に要し殊に創業時代に資金不足の爲めに困難し引いて無理をして他日失敗の原因ともなるのだから、信用部の兼營は組合製絲の成功上の要件である。丁抹の自作農政策にせよ、あらゆる事業の成敗は主として人物と其事業に伴ふ資金の如何にあるのだから、今日の農村の如き資金の調達に困難する所では一層資金問題は致命的なのである。殊に創業時代は外部の人々には勿論、組合員すらの信用を得る上に困難なのが常例であるのを思へば、信用部の兼營の必要の事はよく諒解出來ると思ふ。

7　工女は組合員の子女を中堅とし、教養待遇共に共存共榮主義によること。

組合製絲の長所の一は工女工男が比較的得安く且又組合員の子女が多いから、共存共榮の考から仕事に親切味が多い點である。組合員の子女は自己の繭を製絲するのだから云はゞ自分の仕事で、他人の仕事をするのでないから、普通の雇傭關係と違つて、自由獨立共存共榮の思想であるのは當然である。從つて工場及寄宿舍内の衞生は勿論食物などは充分滋養分を與へて、工女の肥へるのは畢竟組合の利益であり又組合の榮ゆるのは工女工男の利益であることを充分に知らしむべきである。故に普通の製絲工場と違つて彼等の健康娯樂其他萬般に亘つて營利主義一方ではなく、工女事務員等の教育や將來に就いても大に考へねばならぬ、信州の個人製絲の最大缺點は、工女の肺病患者の多くなるにあり、長野縣及工女供給地の近縣が、將來悲觀さるゝのも此の點である。年若き子

女を町村の工場で働かせるのは、一家のためであるのみならず町村永遠の賢明の策である。

8　製絲技術及工場經濟の研究を充分にすること。

組合製絲の弱味の一は製絲技術及工場經濟の研究が、營業製絲に對して後れて居る點であるが、自分の仕事としての觀念が勢ひ共同事業だから弱い故、此の點は止むを得ない所でもあるが、理事者はよく此等に意を注いで一釜當りの能率及絲量に對する經費、絲質の改良等に就て大いに攻究すべきである。

9　理事者は有給とし中心人物の選任に最も注意すること。

日本の產業組合はヨーロッパの產業組合と異つて、理事者の名譽職の點は一見善い樣であるが、其實却つて不經濟のやり方であるから、今後は出すべきものは世間並に出して、その代り組合の仕事に大いに骨折つて貰ふことが肝要である。殊に組合製絲の如き農村の經濟に大影響ある仕事には相當の報酬を出さねばならぬ、就中組合製絲事業では

中心人物の選任が肝腎で、此の中心人物の得られると否とが、事業の致命傷と云つてよいから、適當の中心人物を選んで、仕事の大綱を定めた上は、此の中心人物に大體を任せる樣にする。船頭多くして船山に上つては、組合製絲の如き養蠶家の經濟を左右する事業としては、一大事である。組合長なり、專務理事なり、組合の中心となつて働く人には年報酬少くとも千圓以上を支出する。千圓以上出して大に働いて貰らふ方が遙に組合の利益である。所謂名譽職もよいが報酬が二百圓や三百圓では仕事迄名譽職になつて組合として非常に不利益である。丁抹や英國の產業組合が立派な成績を擧げて居る主なる原因の一は、理事者が有給で充分の報酬を得て專心働いて居るためである、自分がマンチエスターの消費組合本部を訪ねた時に理事長が英國では自己の生活に必要な報酬なしで公の仕事に骨折る人はないと云はれたが誠に名言である。

10　組合製絲には政爭は禁物。

如何なる組合事業でも政爭は禁物であるが、殊に組合製絲の樣な養蠶家の經濟を左右

する仕事には此の點を大に慎まねばならぬ、組合製絲事業の經過を見ると、創立の際には骨が折れるから誰も左迄手出しをするのを嫌ふが、愈々成績が擧がつてくると、ソロ〳〵野心家が出て、此れを掻き廻はさうとするのは全く困りものである。就中政黨的の爭は最も禁物で、此のために事業の衰退を招いた例は少くない。

11　問屋の選擇を充分にすること。

如何はしい問屋ほど運動が上手とは世の中も困まつたものであるが、組合製絲としては此の問屋の選擇が肝腎で、絲を賣るには成行賣りなり成行賣りの豫約なりそれでよいが唯此の問屋を定めるには愼重の注意を要する、何方金の嵩む仕事であり、十年或は二十年に一回だまされると飛んだ目に遭ふから吳々も注意すべきである。

而して問屋としては大日本生絲販賣組合聯合會を利用すべきで、出來た生絲は全部此の聯合會に委托して賣つて貰ふのが最も安全で有利である。此の大日本生絲販賣組合聯合會は昭和二年五月より事業を開始した云はゞ組合製絲の總本山で、從來の所謂横濱神戸の問屋を經て販賣したものを、此の中間商人を排除して直接組合製絲自體が聯合して、輸出販賣せんとする仕組で、日本の農村をして丁抹式にするに是非共必要の機關である。丁抹ではあらゆる農產物に亘つて產業組合の聯合會があり、その出張所がロンドン、ニューヨークにあつて中間商人の手を經ず直接輸出をして居る。卽丁抹の農產物の總輸出額の六十パーセントは產業組合聯合會の手によつて取扱はれて居るから、從つて普通商人をして追從させるだけの偉大なる力を持つて居る。

生絲販賣組合聯合會もまだ創立早々であるから、勿論充分の仕事は出來ないで、現在では直接輸出迄には至らないで、唯從來の問屋の仕事をして居り、輸出販賣は所謂輸出商の手を經て居る。又商標も丁抹の樣に聯合會で全國的に統一するまでには至らないで、組合製絲個々別々であるけれども、將來の理想としては此等の製品を此聯合會で統一的に檢査して、商標を聯合會の商標として統一し、又輸出も輸出商の手を經ず、ニューヨーク乃至パリに出張所を設けて、直接彼の地の需要家と取引する樣にせねばならぬ。

現在聯合會の事業の大體を紹介すると、各組合から出荷した生絲を受付けると、先づ生絲千斤につき十綛を採取して精密に檢査をして、出來る丈荷口や生絲の品質に就ても特長缺點を調査して、賣込の參考にすると同時に、出荷組合にも注意する。

次は賣込であるが、此れは斯界の表裏に通じた專門家があつて、直接信用ある輸出商に賣込む。賣込人は手腕も必要だが人格者でないと色々の疑惑を生じ易いから、此の點は充分に注意して居る。幸に今日迄の經過によれば賣込の成績は各方面の信用を博して居る。生絲の取扱で出荷者と所謂問屋との間に一番問題を生ずるのは、生絲が高價な品丈目切れの點であるが、此の點は聯合會は一般營業者と異つて所謂組合の品物を扱ふのだから、不正の事をする必要なく、最も精確なる方法を取つて居るので、非難は從來より餘程減つたのは事實である。

販賣代金は賣却の都度出荷した所屬組合又は聯合會の指定した方法によつて入金卽日送金することになつて居る。尤も假渡金、歩合金、其他既定の經費又は正量檢査費、帝蠶組合積立金等を差引くのである。

たゞ問屋の手數料と異なる所は一旦規定の割合を以て徴收するが、聯合會の經費を支辨して殘る場合、卽ち年度末決算の結果、剩餘金を生じたる場合には、出資に對する配當特別配當として所屬組合に交附し又は準備金或は其他の積立金とするのである。販賣歩合金は第三年度迄は賣上金に對する千分の六半であつたが、第四年度からは千分の五半とした。第二年度第三年度に於ては出資に對する五分の配當をした外、特別配當をし且所屬組合又は聯合會の持分となるべき準備金を積立てゝ居るから、之等を全部計算に入れると兩年共歩合金の正味は約千分の五に當つて居る。聯合會設立前、所屬組合又は聯合會が問屋に支拂つて居た賣込手數料は、最も低いものが千分の七、最も高いものが千分の十五であつて、平均大凡千分の七乃至八であつたのである。現在は聯合會へ出荷する組合又は聯合會に對しては問屋も亦賣込手數料を漸次低下して居るけれども之は聯合會の存在するが故であることは申すまでもない。

聯合會の金融は所屬組合又は聯合會に於て、主として原料繭受入の時期に於て必要なる資金に付ての斡旋と、所屬組合又は聯合會よりの生絲を出荷したる場合の假渡金の流通であつて、後者が主である。假渡金は荷爲替の引受によるものと、現金を交附するものとの二途に分れる。聯合會は產業組合中央金庫及日本勸業銀行より低利なる資金の供給を受ける便宜があるから、問屋が市中銀行に於て調達したる資金に比し、常に日歩當り約三厘以上の低い利率を以て供給し得るのである。

聯合會の事業の檢況を紹介すると

年度別の生絲受入梱數並販賣數は左表の通りで

年度別生絲受入並販賣表

年度	受入梱數	販賣梱數	販賣金額
第一年度 自昭和二年五月 至昭和二年六月	五〇梱	五〇梱	四八、二九九円四三
第二年度 自昭和二年七月 至昭和三年六月	一七、〇五二	一六、七二五	一三、〇八〇、三七二九四
第三年度 自昭和三年七月 至昭和四年六月	一九、九四〇	一九、六九八	一五、五七〇、三五七六八

備考　第三年度受入梱數ニハ前年度ヨリ繰越ノ三百二十七梱ヲ含ム

第四年度卽昭和四年七月から今年六月迄の概算は、二萬五千梱に上る豫定で年々堅實な發達を示してゐる。

又加入組合は左表の通りで

	組合製絲數	加入組合
第一年度	四〇四	二五三
第二年度	四一〇	二七九
第三年度	四二〇	三一七
第四年度	四二〇	三二一

此れも亦逐年增加して居るが、組合製絲が全部加入しないのは遺憾の至りである。此

の原因は組合中には從來の問屋との關係や震災手形の關係か或は組合理事者の小我の偏見のためであるから、年を追ふて聯合會に加入し又加入する樣に自覺させる必要がある。日本の養蠶家が自覺すれば各府縣各町村に組合製絲が普及するし、組合製絲が設立されれば當然此の聯合會に加入して、金融上は勿論事業の經營上に就ても懇切な指導を受ける便利があつて、殊に生絲の賣込の上に、小なる百釜や五十釜の組合が聯合して大なる力となり、一萬釜二萬釜の製絲工場と同じ力を有することになるのだから、どうしても全國の組合製絲が擧つて此の聯合會に加入して打つて一丸となり、大同團結の勢力によりアメリカ乃至ヨーロッパの需要國に對抗せねばならぬ。我利我利の問屋などの小策に飜弄されて、御馳走政略や小我の偏見に囚はれて、二千萬の大軍が獨佛の戰線に相對抗したヨーロッパ大戰の時代に、源平の一騎打に等しい五十釜百釜の賣込を手柄功名にして居つては、誠に氣の毒の至りである。速に聯合會に加入して賣込や資金調達の煩雜苦勞から脫却して、清新潑剌の氣持を以て工場經營に專心してほしいものである。

現在全國の組合製絲系統の生產額は年額十萬梱であるから、現在聯合會の取扱額の四倍に達する可能性はあり、更に將來組合製絲は益ゝ普及發達するから十萬二十萬梱となる日も遠くはあるまい。今日我國の生絲の生產額は約百二十萬梱であるから組合製絲の前途も遼遠と云はねばならぬ。

12　組合製絲には聯合會が必要。

前述の樣に善い問屋の選擇上にも又絲を平均に賣る上にも相當生產額がまとまらないでは、相場にムラが多く平均賣りが出來ないから、どうしても個々の組合を聯合し、聯合會を作る必要がある。例へば碓氷社、甘樂社、下仁田社、龍水社、伊那社、埼玉社、の如きは其實例である。斯くて聯合會を組織し、製絲技術改良上、資金の融通上、生絲の販賣上是非共聯合會の共同的の大なる力に俟たねばならぬ、

此の意味から更に必要なのは全國を一丸とする大聯合會の必要で、前述した通りである。

結論　營業製絲と組合製絲の比較

以上組合製絲の利益や經營法等に就て述べたが、千百の美辭巧言よりも一の事實が强い證據であるから、玆には結論として長野縣に於ける營業製絲と組合製絲の能率と費用の比較を御目にかけよう。左表は毎年六月から翌年五月迄一箇年間の成績で同縣下の組合製絲七十六組合の平均と營業製絲の百七箇所との比較で、長野縣廳が調査したものである。

生絲百斤生産費（自昭和三年六月至昭和四年五月）

一、營業製絲

項目＼地方別	佐久地方	一圓小野地方	諏訪地方	伊那地方	安筑松本地方	更級高井地方	各地方總平均	前年度各地方總平均
工女募集費	二、四五	四、四三	九、五二	七、〇二	四、六七	六、九〇	六、九八	六、九七
養蠶奬勵費	—	一六	一、一三	一、二四	六九	—	八〇	—
繭仕入費	二九、五四	二四、七九	三七、五六	二五、七八	二五、〇八	二八、一二	三〇、八三	三一、四九
乾繭費	二〇、三四	一四、〇八	一六、九九	一七、〇四	一五、六一	一六、四四	一六、七八	一八、三二
貯繭費	五、一六	四、二六	四、七七	四、一七	四、一一	二、六四	四、三九	四、四九
送繭費	二、〇三	一、七三	一、八二	一、五三	一、四九	二、一七	一、七一	一、五二
繰絲工賃	一〇二、九〇	九八、五八	九二、三九	九八、一〇	一〇一、四四	九九、四七	九七、〇〇	九六、〇八
揚返及束裝費	一一、九〇	一四、一五	一一、四五	一三、七三	一三、五九	一〇、七四	一三、四四	一三、八七
荷造及賣込費	一九、八五	一九、八五	二〇、一三	一九、五二	一八、八五	二〇、〇八	一九、七四	二〇、三〇
電燈動力費	三、七六	三、七六	四、一六	三、八四	四、三三	三、九四	四、一三	三、八七
薪炭費	二九、九二	二九、一二	二五、三八	二九、八七	二九、三八	二八、〇〇	二七、七八	二九、四四
賄費	三三、二八	三五、八二	三四、八二	三二、六八	三四、七二	三六、一五	二四、四七	三七、七三
役員以下諸給	二四、三五	三二、五九	二九、〇七	二七、二八	二六、六八	二八、三三	二八、〇七	二八、三八
旅費	一、九五	一、五八	一、七五	一、四五	一、七五	一、二九	一、六七	一、五一
消耗品費	二、八七	三、七〇	四、四〇	四、二九	四、四六	三、一一	四、一〇	四、四五
通信運搬費	二、一一	一、五六	二、三三	二、四〇	三、一三	一、五四	二、三四	一、九九
諸税諸掛	五、九二	八、三二	四、九〇	四、六六	五、三五	五、六八	五、三八	六、五七
保險料	二、三二	二、四七	二、三七	二、七九	二、五〇	二、九六	二、五一	二、七三
從業員福利施設費	五、一六	六、五八	五、〇六	四、八九	五、三七	七、五五	五、四二	四、四五
修繕費	七、九三	二、七八	一〇、二〇	九、〇〇	七、六九	二、一四	九、五四	八、七三

二、産業組合製絲

項目／地方別	乾繭費	繭受入費	繭供給奨勵費	工女募集費	繰同總一依頼 釜當調査 平均繰一ケ年度 絲量日量	前年度計	合計	雜費	借入金利子	固定償却費
北信地方	一八、四八	二、三五	一一、四二	円 六二	二一、三五	三六、五九	三七、九二	九、三五	五〇、九〇	四、八二
諏訪地方	九、四七	五六	五、八二	円 一九	二一、八〇	四二、二二	四三、四二	二二、一八	五六、八二	一五、〇三
上伊那地方	一三、四四	六〇	一四、四七	円 二三	二一、四〇	四〇、四六	四一、三三	七、九二	四六、三六	八、九二
下伊那地方	一三、九六	九八	八、四〇	円 七二	二一、八〇	三六、八四	三七、九二	五、八二	四九、三二	六、八二
松安本筑地方	九、九九	七、八二	六、七七	円 二、一三	二一、八〇	三六、三八	三七、九四	六、九四	五〇、一九	六、八八
總平均	一三、七二	一、六六	一〇、二〇	円 六六	二一、八〇	三六、三四	三七、九四	八、一七	五〇、一四	一〇、二二
各地方前年度平均	一四、五二	一、一九	防配置シカナタノル一供ニ部圖ヨト務員ヲ食被ヘ 一、三〇	円 七八	二一、九一	三四、一九	三五、一九	一	四九、一一	一七、二四
繭糸價	一一、四〇	一、一九	一、一三	一、一六	二一、〇〇	三四、〇〇	三五、〇〇	八	五〇、一四	一七、二四
煙突及動力	四、五〇	一、五四	一、〇四	一、三八	二一、八五	三四、八五	三五、三五	一〇	五六、三四	一八、七二
荷造費	一三、三四	一、六九	一、一三	一、三八	二一、八五	三四、八五	三五、三五	一〇	五六、三四	一八、七二
運搬費	一〇、四二	一、七〇	一、一六	一、三五	二一、八〇	三四、〇〇	三五、〇〇	一一	五六、〇〇	一八、七二
雇員給料	一四、五四	一一、一九	六、五〇	一、一四	二一、九四	三四、九四	三五、九四	七、一四	五六、一四	一八、七二
役職給料	一三、八三	一一、一九	六、五〇	一、一六	二一、九五	三四、九四	三五、九四	七、八一	五六、〇〇	一八、七二
諸費	八、四三	一一、一九	六、五〇	一、一四	二一、五六	三四、五六	三五、五六	一一、四四	五六、四四	一八、七二
旅費	三、四五	九	一、八三	一、一六	二一、五六	三四、五六	三五、五六	一一、一七	五六、五六	一八、七二
消耗品費	七、一四	三、九四	六、三八	六、三四	七、五六	四、五〇	四、五〇	六、八〇	五六、〇〇	一八、七二
信用費	三、九四	一、八七	一一、〇六	一一、七六	一一、八〇	一一、八〇	一一、八〇	一一、一七	五六、一四	一八、七二
稅諸費	一、三六	一、〇四	一一、八五	一一、〇五	一一、三八	一一、三五	一一、三五	一一、一五	五六、一四	一八、七二
掛費	一、九五	三、三〇	三、九三	一一、六五	一、九七	一一、九一	一一、九一	一一、八七	五六、一四	一八、七二
貯蓄費	五、四三	四、四五	七、三九	六、九六	七、六四	六、六〇	四、九〇	六、八〇	五六、一四	一八、七二
繰綿費	八	三五	一、一五	一、一六	一、一三	一一、〇一	一一、〇一	一一、七〇	一一、一四	一八、七二
撰糸費	一、一〇	一一、一〇	一、七三	一、一一	一、四〇	一一、八〇	一一、八〇	一一、六七	一一、一四	一八、七二
繭工費	一〇、四〇	一〇、七四	一〇、三四	一〇、三四	九、九五	一〇、四六	一〇、四六	六、三九	一一、一四	一八、七二
荷造及束費	一、三四	一〇、一四	九、九五	一〇、五八	九、六五	一〇、四六	一〇、四六	一一、一一	一一、一四	一八、七二
煙突會社買上費	六、八九	一七、九〇	一六、一一	一三、一三	一九、五五	一七、一一	一七、一一	一一、一一	一一、一四	一八、七二
動力費	四、四〇	五、八三	五、七六	五、六六	四、九六	五、四六	五、四六	一一、七〇	一一、一四	一八、七二
賃金費	三四、四六	二七、〇六	三四、六九	三四、二七	二六、七二	三三、四〇	三三、四九	一一、一四	一一、一四	一八、七二
賃料	三九、四〇	二九、八三	三四、〇三	三四、九四	三四、八一	三四、八六	三四、一四	一一、一六	一一、一四	一八、七二
賃料	三一、五四	二一、八二	二一、九二	二一、九五	二五、〇〇	二四、一四	二四、一四	一一、六六	一一、一四	一八、七二
賃料	八、四二	一一、一九	六、五〇	七、二四	一一、四四	七、八一	七、八一	一一、一四	一一、一四	一八、七二
賃料	三、四五	九	一、八三	一、一六	二、五六	二、一七	二、一七	一一、一〇	一一、一四	一八、七二
費	七、一四	三、九四	六、三八	六、三四	七、六五	六、六〇	六、六〇	六、四四	一一、一四	一八、七二
費	一一、九〇	一、八七	一一、〇六	一一、七六	四、五〇	一一、八〇	一一、八〇	一一、八〇	一一、一四	一八、七二
費	一一、一四	一、〇四	一一、八五	一一、〇五	一一、三八	一一、三五	一一、三五	一一、一五	一一、一四	一八、七二
費	一一、六六	一、九七	三、九三	一一、六五	一、九七	一一、九一	一一、九一	一一、八七	一一、一四	一八、七二
費	七、四四	七、三九	七、三九	六、九六	七、六四	六、六〇	四、九〇	六、八〇	一一、一四	一八、七二
費	一三、四六	一一、一三	一三、四六	一三、三一	一一、〇一	一一、七〇	一一、七〇	一一、一四	一一、一四	一八、七二
費	一四、五〇	一七、三一	一七、六四	一三、三一	一八、八七	一四、一八	一四、一八	一一、一四	一一、一四	一八、七二

借入金利子	五四、六二	一四、二〇	一四、一四	一五、〇三	二九、一三	二〇、七〇	二一、八四
雜費	一〇、五五	四、六五	九、三四	八、六三	一一、九八	九、〇六	九、〇五
合計	四〇三、四二	三一〇、四一	三五七、四四	三五二、九九	三六一、三三	三七〇、八四	三六〇、八四
前年度計	四二三、六二	三三二、〇三	三五九、八二	三三	三七、三四	三六、八四	一
依賴調査工場數	九	五	三	三	七	六	七
一釜當一ケ年繰絲量	二八、〇四〇貫	三三、三〇〇	二九、五九〇	三〇、二五〇	三二、九五〇	三〇、二四五	一
總繰絲量							
同一日平均繰絲量	一〇、〇匁	一二、三	一二、一	一二、八	一二、〇	一二、〇	一二、〇

備考

本調査は營業製絲一〇七工場、產業組合製絲七六組合に照會し其回答を取纒めたるものである。

繰絲量に於て組合製絲は一日平均百二十四匁で約八分營業製絲に比べて能率が高いし、百斤當の製絲費用は三百五十七圓五十一錢で七分少いのである。此調査は長野縣の蠶絲課の調査だから最も公平と云つてよい、御承知の通り長野縣は片倉を始め日本第一の製絲國で信州系の絲は全國輸出の六割を占め、名實共に我國製絲界の覇王であり、殊に製絲經濟の點に於ては他府縣の製絲家の遠く及ばない所である。他府縣の營業製絲が多く失敗して、信州系の製絲家の成功する所以は實に此の製絲經濟の上手な點である。然も此の日本一の製絲縣である長野縣で、營業製絲が前述した樣に組合製絲に比べて、大に費用及能率の點に於て劣ると云ふのは、如何に組合製絲が農村の振興上は勿論養蠶家の利益であると云ふことが、明瞭である。其理由は外でもない。組合製絲は蠶種が比較的統一されて居るから、繭も一樣であり、工女も組合員の子女で共通の利害關係にあり、衞生上もよいから、絲の解舒も善く、又繭の買入費用や工女の募集費もいらないし、尙ほ營業税所得税等の税金もないから能率も進み費用のかゝらないのは當然である。自分の知つて居る愛知縣の上奈良館と云ふ組合製絲の隣りに營業製絲があつて、不思議の事に大變兩者仲よくやつて居るが自分が其組合を訪ねた時に、營業製絲の主人もやつて來て色々快談したが、其主人の話に將來はどうしても農村では組合製絲に限ります、營業製絲も片倉の樣な大きいのは兎に角百釜や二百釜の個人製絲では相場の波が荒いし、一時に資金はいるし到底長くやつてゆけません、之れに反して組合製絲は多數の養蠶家の

團結で繭には値段があるではなし、加工して得た金を分配すればよいのですから全く氣丈夫、之れに稅金にしても自分の所の計算によると大正十三年度に上奈良館は營業製絲なら、一萬二千圓位拂はねばならぬ勘定なのに、一文もいらぬ有樣ですから全く大したものです、こゝ十年經たない中に愛知縣の營業製絲の大半は廢業するか組合製絲に讓るか其運命は定まつてゐますと、

熱心顏に溢れて話された。此れは獨り愛知縣のみでない、製絲界の覇王たる信州系の有力者の中にも、現在の樣な養蠶家と製絲家と對立する營業製絲の組織では到底將來はいけない、少くとも兩者の協調する樣な組織にしないでは營業製絲は行きたゝないと悲鳴をあげて居る位である。製絲界の事情に最も精通せる此等有力者の云ふ將來の活路たる養蠶家製絲家の協調とは抑ゝ何であるかと云ふに、要するに其最も理想的の組織は實に養蠶家自身の團結による組合製絲に外ならない。組合製絲こそ誠に養蠶家製絲家の一心同體とも稱すべきもので、兩者の協調を說く彼等の聲は疑もなく組合製絲が大にしては國家經濟の上に、小にして養蠶家自身の爲めに最も理想的の組織たることを認めたものである。

此れ卽本書に養蠶家の生くる道組合製絲と題したる所以である。

組合製絲十訓

最後に組合製絲經營の參考として組合製絲十訓を揭げて見よう。

一、中心人物の選任に最も注意し、相當の報酬を惜まぬこと。

二、工男工女には組合員の子女を選み、努めて優遇し併せて敎養に努むること。

三、設備に虛榮は禁物たること。

四、製絲經濟其他工場の經營に就ては營業製絲に劣らざる樣特に研究すること。

五、釜數の增加は愼重に供繭量を考慮し、漸進主義を執り、釜數は寧ろ稍ゝ不足するをよしとす。

六、委托主義に依り、買取主義は絶對になさざること。
七、成行賣を勵行し、先賣は嚴禁し、問屋は組合製絲全國聯合會を原則とすること。
八、貸付は供繭時價の八割以内たること。
九、政爭の渦中に投ずることは嚴禁たること。
一〇、經營は急がず焦らず、十年平均主義を執ること。

大正十五年二月十五日印刷
大正十五年二月二十日發行
大正十五年三月二十日再版
大正十五年四月十五日三版
大正十五年五月二十日四版
大正十五年六月二十日五版
大正十五年六月廿五日六版
大正十五年六月廿七日七版
大正十五年七月二十日八版
大正十五年七月三十日九版
大正十五年八月二十日十版
大正十五年八月三十日十一版
昭和五年七月五日訂正增補十二版發行

【定價金參拾五錢】

著者　東京市小石川區春日町五十番地　横尾惣三郎
發行者　東京府杉並町成宗五十七番地　農村研究會代表者　依田源七
印刷所　東京市神田區表猿樂町二番地　株式會社　開明堂東京支店
發行所　東京市京橋區銀座西七丁目五番地　農村研究會
電話銀座四五・四五〇一・四五〇二
替振東京四七七六番

著作權所有

330
193

終